

令和1年度 保育士の自己評価(自己チェック)

今年度の自分自身の業務を振り返り、自己チェックを行いました。(対象:全職員 事務員・調理従事者含む)  
 方式は、自己評価票への記入を採用し、チェック項目は『レインボー保育園職員マニュアル』を基準としました。  
 (数字:%)

	項目	よくできた	できた	あまり できなかった	できなかった	回答無し
1	遅刻をしないように余裕をもって出勤する	57.6	33.3	6.1	0	3.0
2	挨拶は笑顔で快く元気な声です	48.5	48.5	0	0	3.0
3	相手と向き合い目をきちんと見て挨拶する(子どもに対しては、相手の目線までおりる)	39.4	57.6	0	0	3.0
4	言葉づかいは、やさしい言葉で対応する	30.3	60.6	6.1	0	3.0
5	子どもに対して、呼び捨てや傷つける言葉は絶対につかわない	54.5	30.3	9.1	0	6.1
6	保護者に対して友達言葉はやめて、礼儀正しい言葉をつかう	39.4	51.5	3.0	0	6.1
7	職員間でも園内では先生同士ということをわきまえ、丁寧な言葉をつかう	33.3	54.5	9.1	0	3.0
8	清潔で活動しやすい服装・身だしなみで業務にあたる	66.7	30.3	0	0	3.0
9	爪は短く切り、マニキュアはしない	78.8	18.2	0	0	3.0
10	突起のある指輪やピアスなどのアクセサリはつけない	84.8	12.1	0	0	3.0
11	授乳時は時計もはずし、子どもを傷つけないように配慮する	48.5	15.2	0	0	36.4
12	髪の毛の長い人は、結ぶなりして子どもに当たらないようにする	66.7	24.2	0	0	9.1
13	保育中は私語を慎み、いつでも子どもに手が届くような体勢をとる	24.2	54.5	9.1	0	12.1
14	保育室を空にしないよう声をかけ合い、子どもだけにしない	60.6	30.3	0	0	9.1
15	職員同士、正しくないと思ったことは注意しあう	9.1	42.4	30.3	6.1	12.1
16	怒鳴ったり、けなしたりせず、相手の立場に立って、きちんと話す	51.5	39.4	6.1	0	3.0
17	室内外・廊下・階段等、ゴミをみつけたら拾い、棚の整理なども心掛ける	33.3	63.6	0	0	3.0
18	子どもに対して、感情的に頭ごなしに大声で怒鳴らない	45.5	39.4	6.1	0	9.1
19	子どもに対して、絶対に手をあげない	84.8	6.1	0	0	9.1
20	子どもに対して、危険をとまなうことや約束を破ることなどはきちんと向き合い叱る	30.3	51.5	6.1	0	12.1
21	だらだら叱らず、簡潔に分かりやすく伝える	30.3	48.5	6.1	0	15.2
22	年間で計画したことを、子どものその時の発達に合わせて、見直しをもって行う	12.1	42.4	3.0	0	42.4
23	保育について、子どもを長時間待たせないように準備しておく	21.2	39.4	3.0	0	36.4
24	全職員が一貫性(お互いが気をつけること、目標とするもの)をもって保育する	15.2	45.5	15.2	0	24.2
25	保育中に起こった怪我や事故、子どもの体調変化は些細なことでも報告する	48.5	30.3	3.0	0	18.2

～考察～

・子どもや保護者に対する言葉遣いに関して、9割の職員が『よくできた』もしくは『できた』としたが、『あまりできなかった』と答えた職員が3.0～9.1%いた。「心に余裕がない時は意識することができず嫌な思いをさせてしまった」との意見もあった。職員個人が抱え込まず、互いにサポートし合える雰囲気づくりのさらなる醸成が課題となった。また園内外の研修等を活用して、あらためて対人支援のあり方を学んでいく必要性もみられた。

・職員相互間において必要な指摘ができないことがあったとする職員が約30%いた。これは一貫性のある保育が『あまりできなかった』(15.2%)とする思いにつながっていると考えられる。どのようにすれば人間関係を悪化させずに、かつ十分な議論をしていけるか、引き続き検討していきたい。

※調理従事者や事務員は、保育に関する設問には「回答無し」としています